

ものづくり 日本大賞 優秀賞に小松電機産業、日立金属

物作りに携わる優秀な人材などを表彰する「ものづくり日本大賞」に、松江市のシート式シャッター大手「小松電機産業」と、安来市に工場がある「日立金属」が優秀賞に輝いた。29日、広島市内で開かれる記念フォーラムで表彰される。

同賞は国内の産業や文化を支える物作りを継承し、発展させようと2005年に設けられた。経済産業省や国土交通省などが連携し、隔年で実施している。

小松電機産業は、建屋内に間仕切りを作ることができる「大型扉の機能分解から生まれ、空間価値創造へ進化する超高速ハッピーゲート門番システム」で受賞。従来は工場の出入り口に設置する重厚な作りだったが、エアシャワーやエアカーテンを組み込みながら軽量化し、オフィスでも利用できるようにしたことなどが評価された。同社は「世界規模の商品を目指して技術を継承したい」としている。

一方、日立金属は自動車の無段変速機(CVT)用金属製ベルト材の製造方法を開発。疲労強度を約25%向上させ、ベルトの信頼性や生産効率を大幅に向上させた。世界のCVT車の約40%に、この製法によるベルト材が使われており、物作りに携わる人たちの励みにつながっている。同社は「今回の受賞を励みに、ますます安来工場のモノづくり力を高めていきたい」と意気込んでいる。(佐藤祐理)